

- ① 所属名：弘前大学（ひろさきだいがく）
- ② 協会会員番号：1978
- ③ 氏名：加藤 拓彦（かとう たくひこ）
- ④ 所属県士会：青森県作業療法士会
- ⑤ タイトル：1 年経って
- ⑥ 本文：

東日本大震災から 1 年が経過しましたが、未だ余震が続き震災の記憶を遠い過去のものへと追いやることが出来ません。多くの被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災当日、私は弘前にある介護老人保健施設で機能訓練を実施していました。未体験の長い揺れに驚きながらも、目の前にいる患者さんの安全確保のため場所の移動だけ行いました。この後 3 階にある機能訓練室は、エレベーターが利用できない状況等により 1 ヶ月ほど利用できなくなりました。

私には、仙台の大学に通う娘がいます。機能訓練に参加されている患者さんの安全確保がなされ一息ついた頃、他の職員が震災の状況を教えてくれました。それからというもの、娘の安否だけが気になりました。携帯が通じない状況が続き、やっと連絡が取れたのは夜遅くでした。娘は避難所生活となり、翌日からは食料を確保することが難しくなったそうです。震災翌日バスで帰郷するよう話しましたがチケットを確保できず、私は車で迎えに行くことにしました。とはいえ、道路の状況がつかめずガソリンの確保も難しい状況でしたので、他の車からガソリンを抜き取り、できるだけ被害が少ないであろう秋田、山形を通り仙台に向かいました。何とか娘にも会うことができ、娘の友人 3 人も同乗し、弘前に着いたのは翌日の早朝だったと思います。

福島の原因が次々と爆発を起こし、確実に汚染被害が拡大していることが報道されたのは震災から数日たってからのことだと思います。福島にいた一人暮らしの叔母を我が家に迎えたのはそのような時です。線量の数値がある程度落ち着いてきた頃、叔母は福島に戻りました。

震災当日から現在に至るまでの約 1 年間、先述のようなことをしながら日本はどのような国であるのか、自分は何者なのか、何が大事なのか・・・等々、多くのことを考えてきました。が、何一つよくわかりません。被災地に関しての「成る」姿を想定できず、何を「為す」ことが良いのかを明瞭にできないでいます。しかし、このような時に山形発上杉鷹山が精神が大事ではないかと考えられ、「為せば成る」のであれば作業療法士として教員として「為す」ことができればと考えています。